

## 森友問題「ゼロ回答」 国税庁長官に

写真は朝日新聞 5 月 13 日朝刊の特集「森友問題 深まる謎」から。安倍晋三首相夫妻と松井一郎大阪府知事の間、佐川宣寿・財務省理財局長の姿が載っている。



この佐川氏をめぐって、毎日新聞 7 月 23 日朝刊に標題記事が。リードから — 学校法人

「森友学園」への国有地格安払い下げ問題で財務省理財局長として国会答弁に立ち続けた佐川宣寿氏（59）が、今月 5 日付で国税庁長官に就任して 2 週間あまり。野党の追及に徹底した「ゼロ回答」で臨んだ功で栄転したと国民から疑問の声が上がっている。実態はどうか。

就任を受けて毎日新聞 11 日朝刊に神戸市の男性（61）の投稿が載った。「拝啓 国税庁長官様」で始まる。「私も納税者の一人です。税務調査の際に『関係書類は紛失しましたが、適切に処理しているので経費の計上を認めてください』と申し上げる場合もあります」「国会で何の証拠も示さずに自らの主張を押し通されたのですから、このお願いはよく理解していただけたと思います」。皮肉たっぷりに佐川氏の答弁を批判している。

実際、森友問題で佐川氏の答弁は「記録は破棄した」「データはない」「政治家の関与はない」と「ないないづくし」だった。自民党の鴻池祥肇元防災担当相らの関与を示す文書が出てきても、政治の介入を否定し続けた。4 月 3 日には行政文書について「短時間で自動的に消去されるシステム」と答弁。どんなシステムなのかと大騒ぎに。

国民の財産をただ同然で売ったと批判される財務省の幹部が、税金徴収のトップに就いたことに、人々は怒っている。今回の長官人事を論功行賞と見るのは勘ぐりすぎかもしれない。……だが、麻生太郎財務相は長官人事を「（佐川氏は国会で）丁寧な説明に努めてきた。適材だ」と評し、国民の怒りを買った。

朝日新聞 7 月 5 日夕刊「素粒子」から—「記録はない」「破棄した」では納税者の方は通るまい。首相と夫人の盾役が国税庁長官に栄転。官僚のかがみ、か。

「もりかけ問題」と言われる疑惑が、安倍政権を揺るがしている。このところ、加計疑惑に焦点が当たっているが、森友疑惑も謎が深まるばかり。そんな中で、疑惑隠しの先頭にたつ財務官僚が、国税庁長官に栄転とは。神戸市の男性のように、まじめに税金を納める納税者としては皮肉のひとつも言いたくなる。それどころか、強い怒りも。

(2017 年 7 月 28 日)